

会 議 報 告 書

件 名	令和５年度第３回八潮市学校教育審議会		
日 時	令和５年８月９日（水） １５時００分～１６時４０分	場 所	八幡公民館 多目的室２
出 席 者	八潮市学校教育審議会委員名簿のとおり 【事務局（教育委員会）】 井上教育長 猪原部長、高橋副部長、山内課長、和田課長、和田係長、中井主任指導主事、市野川主任		

１ 開会

２ あいさつ 榎本会長

３ 会議録の承認

第２回の会議録について意見があるか確認をした。
→特に意見はなく、会議録の承認となった。

４ 議事

今回の議事は下記のとおり。

（１）八潮市の教育について
委員からの意見・議論内容は下記のとおり

（会長）

教育委員会事務局と校長先生の委員の方から、これまでの教育の取り組みについて、資料の情報提供をしていただいて、それで今日を迎えた。あくまでも校長や事務局の教育の取り組みについては、委員の皆様方が、これから新設小学校の教育に対することのあくまでも参考になればということで、前回情報提供をいただきました。前回の情報提供と全く関係なく、私はこういう教育を望むということでも結構です。また、ぜひ継続してもっと充実してくれということでも結構ですし、それぞれの方々の今のお立場で委員の皆様方の思いをお伺いできればということでもよろしくお願いします。

それで、前回はお休みだった委員から資料だけいただきましたので、本日は改めて説明をしていただき、情報提供していただけますでしょうか。

→委員が大曽根小学校について、説明した。

（会長）

これからお一人お一人にご意見いただきたいと思います。前回も話したのですが、新設校、これは柳之宮小が最後でした。その後、子どもの数が少なくなって統廃合するというのは全国的にも多いですけど、ここは本当の新設校で子どもの数が増えて新設校を作るということで、新設校の教育の理念、また教育の方向性について、委員の皆様方のお考えをお伺いしたい。言い換えると、子どもたちへの教育に期待すること。もう一つは、新設校に期待すること。どちらも含めても構わないし、どちらかでも結構ですし、この指定に

とらわれずに自由な発言でも結構です。発言ですけども、アトランダムでも良いですけども、時間がもったいないので、皆様方のところに名簿がいつてますでしょうか。その名簿に従って、町会自治会関係の方からご発言をいただいて PTA 関係、運営協議会委員の関係、公募の関係の順番でお願いします。申し訳ないですけど、先生方と副会長と私は、最後の方にご発言いただいて、もしも時間がなくなったら次の会ということでそれでは町会自治会の方からご発言をお願いいたします。

(委員)

今回、委員になったわけですけども、学校の平面を見てですね、学校のイメージが変わっております。開放的な間取りかなというふうに思っております。私が子育てをしているときからもう 40 年近く経っていますので、やっぱり時代の流れなのかなというふうに思っております。この間、意見を出させていただいたのですけれども、自分の子どもが分からない時に、質問されたときに、辞書や百科事典とかで調べて、教えていったわけですけども。今は、パソコンで瞬時に検索ができる。調べる時間を短くすることによって、空いた時間を有意義に使ってほしいなと思っております。何か興味を持ったら、実際に触れてみるなど、体験することに時間を使ってもらえればと思っています。知識だけで、技術が伴わないっていうのがあるかと思いますが、触れてみるような体験とか、そういったものに時間を使っていたらなと思います。

私、今、建設関係の仕事をしているのですが。例えば道路の草刈りとかした場合、舗装のところでも草が生えたりするわけですね。その草を刈っているだけです。深くはそこに土があるから草が生えるわけであって、その土砂を取り除くことによってイニシャルコストはちょっと高くなるかと思うのですけれども、ランニングコストは全然必要なくなりますので、そういうような考える教育をしていただけたらと思っています。以上でございます。

(委員)

前町会長は非常に学校教育関係に関して非常にいろんなことを考えた人ですが、私はあまり教育を受けていないものですから、こういう場で意見を言うってことはなかなか難しいところがあります。私が 1 つ考えたことは、これから学校に通う子の保護者とか、現在通っている人たち、幼稚園の保護者あたりからのご意見も吸いあげたらどうかなと思っています。流山の方ですとやっぱり市全体で地域活性化じゃないけど、いろんな保育に関してとか、そういう環境が非常に良いとのことで、そのような方向で進めたらいいかなと思っています。一応、中川小学校の評議員はやったことあるのですけれども、本当に教育関係に関わったことはないのです、私としては無知なので、ここで言える立場ではないのでそれぐらいしか言えません。よろしく願いいたします。

(委員)

いろんな説明を聞いていて非常にいいなっていうのが実感です。少し思ったのは、たくさんさんの生徒がいらっしゃって、できる生徒とできない生徒の差もあるんじゃないかなというのがあります。できる生徒はよりできるように、できない生徒は一步でも二歩でもできるような、そんな体制ができれば良いかなと思いました。そんなところです。以上です。

(委員)

私、何回もいろいろ教育の話を押聴しておりますけど、率直に意見を申し上げさせていただきますと、こちらの学校もみんな笑顔とか挨拶ができるとか、素晴らしいことだと思

います。しかし、何か特色があるかという実感としてはあまり印象にはないですね。私、つくばエクスプレスができた時に、まちづくりの関係でいろいろ仕事をしていましたけれど、都市間競争っていうのがすごくあるんですよ。新しいまちに人、ものが集積しなければ、まちの発展はありえないわけですから、そういう中で今つくばエクスプレスが開業して十何年経って、流山が今、その幼保教育で有名になって相当人口が増えている。教育もそういう意味で重要なファクターだと思うんですよ。八潮も都心に近いわけですから、そういう中で特色のある学校が協力してくれたら、住んでみたいなとか、新しいファミリー層が定着するとか、やっぱりそういう都市間競争をある程度意識してやったらどうかなと思いますね。それには学校の環境もそうですし、教育そのものもあると思うのですよね。だから、どういう視点で新しい学校を位置づけようとしているのか。どこまで考えているのか。我々も行政の方にもっと言わなきゃいけないのかもしれないかもしれませんが。結局は今、八潮市の人口は86,000人～90,000人ぐらいでしょう。12万ぐらいでまちづくりのマスタープランをしていたと思うのですが、段々少子高齢化だとかいろいろ社会的な状況で変わってきていますから。でも、流山なんか実際、結果が出ているわけですよ。幼保教育とかそういうもので。だから八潮もそういう教育で新しい重要なファクターだという認識があれば、またちょっとひねりがあるのではないかと思います。以上です。

(委員)

新しい小学校に行って、自分の子どもがどういうふうになってほしいかを考えると、心と体と頭の3つが良くなってほしいと思います。例えば、大谷翔平みたいになってほしいとは当然思いますけど、全員が全員そういうふうにはならないと思うので、その3つが豊かな子どもたちになれば当然笑顔も出るでしょうし、夢も当然出てくる。その3つをうまくやってみたいと思います。学校のハードの面で言うと、安全であつたりとか安心であつたり、自動ロックではないですけど、そんなものがあつたりするとすごく安心できると思う。大阪の池田小みたいなことがあつたら困るなと思うので、その辺のセキュリティとかをしっかりとしてほしいと思います。以上です。

(委員)

八潮市の小学校の中で新設校の特色や目立つものを考えた時にサステナビリティ、持続可能な社会はどうかなと思いました。ここ最近、38度とか39度とか猛暑が続いたり、豪雨で中川の氾濫の危険があつたり、そういった環境問題が取りざたされていると思うので、八潮市に住むからには環境も頭の中に入れていけたらいいなと思いました。今回の新設校は環境を意識した校舎になっているということです。専門家を呼んで講義していただいたり、サステナビリティ、持続可能な社会を考えていけるような大人が多くいてくれたらいいなと思いました。子どもの時の体験は大人になってもずっと残っていると思うので、講義だけでなく体験も必要だと思います。体験とか感じることも必要だと思うので。前回屋上に野菜を育てていくのはどうかという案もあつたと思うのですが、ビオトープを作ったり、野菜を育てたりして、四季を感じながら、年によって昆虫だったり鳥だったりそういう自然環境を意識することができたら、感受性が育つのではないかと思います。

もう1つですけども、放課後、校庭を解放して地域の方とコミュニケーションを取れる機会があつたら良いなと今でも思っています。今の子どもたちは、昔遊びをあまりしないような感じがするので、年配の方から、昔はこういう遊びをしていたんだよ。ということ子どもたちに教えていただいて、子どもたちもそういう高齢者と接することによって心が豊かになってくれたら良いなという親の期待があります。その2点を考えました。

(委員)

前回、新しい校舎の図面などを見られて、すごくフリーなスペースがたくさんあったので、どうせなら、心の面でも心の垣根が低いような教育をしていただけたら良いのかなと思いました。例えば、障がいでも見て分かるものと分からないものがあるって、子どものうちからそういうものを持っている子もいると思います。でも、その見えない障がいがあるって、みんなが同じようにバリアフリーな感じの校舎であれば、生活をしていけます。心の面で何かあっても、心が豊かになれば、お互いに少しずつ歩み寄って、すごく成長していけるのかなと思ったので、どんな人にも優しくなれるような環境も提供していただきたいなと思いました。以上です。

(委員)

私は今中学三年生と中学一年生。それから小学校二年生の子どもの親をやらせていただいています。少し脱線してしまうのですが、教育については非常に先生方も苦しい立場にあると思いますし、例えば、教育指導要領に則ってやっていかなければならないとか、それから今、就業時間を短くしなければいけないとか、残業を減らさなければいけないとかですね。そんな中で、果たして親が要望するようなことが本当に実現できる環境なのかどうかっていうこともあるでしょう。個人的に言えば、もう学校の宿題とか本当にやめて欲しいということがありまして、今、まさに夏休みですけど、実は宿題があるだけで家庭不和を招くぐらい、もう宿題やれと、うちの嫁さんはもう朝から晩まで騒いでいるというような状況です。宿題がなければということもないということと、果たして、学力を上げるためにはどうするのかというと、やっぱり宿題があるから学力も上がるのだろうということも意見としては多分あると思います。子どもたちの学力を上げるって非常に簡単なことだと僕は思っていて、要は国語や算数、数学の授業コマ数を増やしてあげれば、勝手に学力が上がると思うのです。まさにうちの娘が塾に通い始めて、わずか2ヶ月ぐらいで、偏差値が7から8ぐらい急に上がるんですよ。聞くと、時間が多ければ、勉強だってできるようになると本人も言っています。学力を上げるなら授業コマ数を増やせば良いと。では、体力を上げるのであれば体育の授業を増やせば良いと思います。少し乱暴ですけど、八潮市内で目標としてこういうことをしたいというのであれば、その授業の数の編成を考えてやっていくということも一つの手ではないかなと考えます。また、新設校の教育の方向性を考えると、新設校だけ特別な教育をして良いかどうかという問題もあるでしょう。新設校で特別なことをやるというのであれば、八條北小のように、市内全域から生徒の募集をかけられるようなそういう枠組みも必要だろうなと思います。

保護者として期待することは、特色を持たせるということであれば、教育指導要領にとらわれないで、例えば授業でルービックキューブであったり、将棋だったり、レゴブロックだったりコマ数の一つとして取り入れてみればまた違った局面が出てくるのかなと思います。まさに勉強を教えてくれるのは学校だと私は思っていて、教育全般は保護者だと思っています。冒頭申し上げたように先生たちが苦しいところにあることは、要は今、小学校、中学校って預入施設の役割もになってしまっていることです。約93%の夫婦が共働き家庭で子どもは学童に預ける。また、学童に預けられない子たちは有料の施設に預けるというような形を取らざるを得ない状況にあって、その中で教育全般を学校に任せてしまっている図式があって、そういうところで学校の先生たちが苦しめられていると非常に感じています。また、専門的な部分で違う先生がいなければいけないとか、先生方の人数自体も、増えて来ないで、減っていく一方だということも聞いていますので、そういうところの体制づくりが非常に難しいところにあるのかなと思います。

1つお願いができるとしたら、勉強中心の教育というような先生方のポジショニングを確立してあげたほうが、お互い良いような気がします。このようなことが最近特に感じていたことです。私のほうからは以上です。

(委員)

僕が、色々と思うことはあるんですけども、子どもたちにどうなってほしいかなっていった時に、自分から率先して何でも発言ができ、また喋るにしても、パソコン等々ありますけども、すぐそればかりに頼るのではなくて、自分で努力をして調べるということを身につけないと、これから大人になっていくにあたって必要なスキルは学べないのかなと思います。そういったところを基本ベースとしてやっていけばいいのかなと思います。

僕は潮止中の学校運営協議会に参加していて、その学校運営協議会で言えよって言われればそれまでなんですけれど。例えば、今、全ての学校なのかどうかは分かりませんが、生徒同士が名前を呼ぶ時に誰々さんって必ず言ってると思うんですよ。昔だと、あだ名で結構、「さん」を付けずに、誰々とかって言うことがあったと思うんです。そんな中で恥ずかしい話ですけど、例えば今の1万円札の人って福沢諭吉っていうじゃないですか。でも、誰々さんってずっと生徒たちが言っていると、例えば家康にしても徳川家康さんって言う子どももいるんですよ。そういったときに、実際うちの娘がそうなのですが、そういう歴史上の人でも1万円札、5,000円札の人でも、誰々さんって必ずつけるので、自分の一番上の長男が26か27歳になるんですけども、「お前、そんなにさんなんて付けて話すやつなんていないぞ。」みたいに、結局おちよくられてしまうんですよ。今後また大人になっていく時にいじめに発展しないこともなきにしもあらずだと思います。うちの娘が例外なのかもしれないですけども、そういったことも踏まえて、今後教育していくにあたって、時代の流れが大事なかもしれないですけども、一度初心に戻るような感じで、昔良かったものは残しつつ、今の時代に沿った教育をしていってほしいと思います。以上でございます。

(委員)

最後話をさせていただくので、皆さんの意見も踏まえてお話しさせていただきたいと思います。各学校の校長先生の教育の話の中で特色などのお話をして下さいましたけど、やっぱり一番最初に笑顔とか元気であるとか、そういうことが学校の目標の中で出ていました。根本的に、そこはすごく大事なことで、元気だったり笑顔だったり、そういうことがあるから頑張れたり、目標を持ったり、夢を描いたりすることができるのではないかなと思っています。

私、朝、横断歩道で小学校の子どもたちの交通指導をしているのですが、学校に行けない子、たまにしか来ない子、いつも遅れてくる子、そういう子たちを見ると笑顔とか元気とかって学校だけでなく、家庭だったりするのが現状だと思うんですよね。大変だと思うんですけど、そのつながりをもっともっと持つことも必要だと思います。そんな中でも学校の先生が元気だったりすると、子どもたちがすごく変わってくる様子を見てきました。例えば、自転車講習とか一年生の旗振り指導とかで他の学校に行きますけど、同じ四年生を見ていても、学校の先生によって子どもたちのパワーや話を聞く姿勢とか行動とか動きとかすごく変わってきてるところを見てきました。やっぱり、学校の先生の力をすごく感じます。だから先生たちも笑顔で元気で子どもたちと接していただきたいなっていうのが私の願いです。

勉強の学力を伸ばすっていうのも、学力は生きてく上で、すごく大事だと思います。中学校は偏差値で順番が出てしまうのですが、偏差値が高ければ上の学校にもいけるし、学

校の偏差値が高い子たちは考え方とか話す内容とか言葉とか全然違ってくるんですよね。そんな子どもたちから、八潮市から出るとこんななんだっていう驚きの言葉を何人からも聞いたことがあります。学力を上げるって、もうそれこそ勉強時間で決まってしまうから、塾で勉強時間を増やせば上がるのかもしれないけれど、がんじがらめの中で学校運営、教育をしていて、そこに何ができるのかなとか考えると何もできない。ただただ元気に笑顔で行って不登校でなくて、毎日子どもたちがみんな通えることが一番理想なのかなと思ったりもしました。欲をいえば、八條北小が英語教育に力を入れているというお話も聞きます。ちょっと特徴のある学校にしていこうということも狙いなのかなと思います。すみません、ちょっとまとまらないですけど、元気で笑顔で先生も子どもたちも同じ時間を共有できることが理想ではないかと思います。

(委員)

私個人として、1点目は小中一貫教育がより深まるのではないのかということを期待しています。今まで八潮市の小中一貫教育は施設分離型なので、どうしても距離があり時間がかかるところで、こんなことができたらいいなということも少し躊躇してしまうところもありました。今までも様々な取り組みをしてきたのですが、潮止中と新設校は隣同士ということですので、より一層距離が縮まるので様々な取り組みは更に深まっていくのかなと思います。特に5年生、6年生、中学校1年生辺りの流れが、いろんなことでより距離が縮まって、中1ギャップではないですけども、中学校への壁がどんどん狭まっていくのではないかなというところを期待しています。

2点目は設計図を見させていただいて、光が入り大変明るいのかなと思います。また、エントランスホール、プレールーム、はばたきルーム、多目的室情報センターなど、使い勝手が良いのではないかなというところがあります。先ほど委員さんから昔遊びという話もありましたけれども、地域や保護者の方を招いて、今もやっていますが、そういうところで先生方をお招きしてやる時も様々な部屋を使えたり、2つに分けてとか、そういうところで非常に可能性が広がる学校ではないかなというところではあります。以上2点です。

(委員)

新設校は、ハード面のところで見ると、施設一体型に近い構造になっているので、小中学校の児童生徒の交流が非常にしやすいのが一つの特徴なのかなというふうに思います。なので、八潮市の小中一貫教育の理念を本当に具現化できるモデル校といってしまおうと、八潮はどの学校も教育委員会がすべてに同じように、いろいろなことに力を入れてくれるので、あまりモデル校という言い方をしたくはないところではありますが、ただ、他の学校と違うことは施設一体型に近い構造であるからこそできる小中一貫教育の理念を具現化できるモデルのような学校の一つになると良いと思っています。児童生徒がすぐ交流できて、異学年交流によって得られる教育的効果は非常にあると思っています、学力も心の面も体力面も先輩が後輩を育てていくという文化によって、今の小中一貫教育をさらに一歩も二歩も進められるような学校になるといいなと思っています。

また、ハードのところでは、いわゆる令和の日本型教育の構築を行うのに適している学校です。例えば他の委員もおっしゃってましたけれども、壁のない教室であったり、多目的室の活用やフリースペースを使って今までではできない学びの場が多様化することによって、いろいろな教育の工夫やアイデアがでてくるのではないかなと思っています。また、一人一台の端末を積極的に活用するような学校であれば、教室を飛び出して、あらゆるところで端末を持って調べ、学習し、生徒の交流だったりができるような、そんな触れ合いが期待できる学校になるといいなと思っています。

最後にこれだけのスペースがあるので、地域とも触れ合える場所というのが常時あって、ここにくれば地域の方と学校と保護者と触れ合えるようなそういったセンター的な場所があったりすると、地域と学校と、子どもたちとPTAが一体として教育に関わっている雰囲気が出るような学校になり良いと思っています。以上です。

(委員)

小中一貫教育というところで、具体的には授業の交流だとか、学校行事の交流などが期待できます。私も潮止中から、新しい学校を毎日見えていますけど、本当に近いと思います。交流しやすい近さでもありますので、新校の小学生が潮止中学校に対して期待したり、憧れを持ったりする気持ちが育つと良いのかなと思っています。新設校の子どもたちや潮止中の生徒も、ふるさとやしおに愛着をしっかりと持って、将来、大人になった時に八潮で何か貢献してみようだとか、僕ら八潮に育ててもらったんだから、八潮のためにこんなことしてみたいとか、そんなことを小学校6年間、中学校3年間の9年間で植えつけられるといいのかなって感じもしております。私からは以上でございます。

(副会長)

皆さんが意見を言った後で話すのでとても恐縮です。私の考え的なものという一番思っていることは、結局、隣に中学校があるということが一番の利点だと思っています。結局は小中一貫教育を推進している八潮市ですから、それを利用しない手はないと思います。例えば、登下校の安全だとかの話がありましたけど、朝、中学生が小学校の校門の前でおはようと挨拶の活動をしたり、小学生が帰るときに時間が合えば中学校の部活でランニングして一緒に帰るだとか。ここの小学校って地域の方や、中学生たちが一緒に子どもたちを見てくれているような感じの特色があってもいいのかなと思っています。そうすると中学生たちも意識が芽生えてくると思います。小学生のほとんどが隣の中学校に行くわけですね。私たちがやっていただいたお兄さんたちがやっていたことができる。結局6年間ではなくて、9年間の教育がそこでできるという部分が特色だと思っています。まだ、発展してない地域ですから、多分保護者の方々は登下校が一番心配だと思うんです。見守り隊を中学生がやっても良いと思いますし、例えば授業の一環として部活に招待して、こういう部活がありますよとか、逆に小学生のクラブ活動に中学生が教えに行ったりだとか、そういう部分でできることはすごくあると思います。それは先生も同じだと思いますけど、楽しみが増える学校にすれば、ここの小学校に行きたいなと思うのかなと私は思っています。多分、皆さんもそういう形の安心安全の特色ある学校になれば、自然と笑顔が生まれてくると思いますので、とにかく本当に安心安全な明るい学校を目指すためには、隣の中学校と一緒に盛上げていくという形が一番ベストかなと思っています。以上です。

(会長)

私の方から、委員として意見を言わせていただければと思います。今、委員の皆さん方のお話を聞いて、かなり多岐にわたって様々な思いや考えがあるのだからってことを改めて感じました。話を聞いて、どれになるほどなとか、ああ、大事だなとかっていうことを実感しました。多分、皆さんの意見をまとめる事務局はさぞ大変だろうなと思ったところです。それで、新設校の特色ある教育とか新設校に期待することは、やっぱり様々な角度から取り組むことがどうしても必要になってくる。それで、この審議会は教育理念を語るところなので、委員の皆さんの何人かが言っていましたが、笑顔とか元気とか安心安全とか明るいとか、そういう学校にしてほしい。いわゆるこの教育理念ですよね。それを本当に

この審議会は教育委員会から諮問をいただいて答申を出すのが、一番の責務になります。もう一つ、その特色ある教育を考えた時に審議会のできる範囲は、今言ったところの範囲で、今度は先ほど委員の中からもありましたけど、市の施策によるところが大きい側面もあるし、教育行政が担う側面も大きいところがあります。また、新設校の管理職、教員が具体策をどう出していくか、この審議会に出された教育理念を具体的にどういう策を持って子どもたちの教育に日々当たるのかってことになると、これは学校の管理職、教員の仕事になってくる。先ほど言ったように、時間数どうしようとかね。そういうこともある程度、校長の責務の範囲になりますし、様々なことが考えられるのかなという感想を持っています。

私は、新設校に期待することの1つは、感動体験をぜひ子どもたちにしてほしい。大人がいう感動体験っていうのは、例えば、野球で、大谷選手がホームランを打って、ガッツポーズしてっていうものをイメージします。そういう感動って学校ではそんなないですよ。良いとこ部活で優勝したりとかね。あと合唱祭で1位になってクラスみんなが歓声を上げたりとか、いくつかはあるけれど。日々の学校教育の中で感動することは、あまりないです。授業を見ていると、初任者のクラスの授業の子どもたちのつぶやきでも「分かった」とか、「そうなのか」って言う声が聞こえてきますよ。私は、そういうほのかな感動体験、これが一番大事だと思う。分かったとかできたとか、あとは考える楽しさとか、こういうやり方で問題解いてみよう。僕は違ったやり方で問題解いてみよう。でも、答えは同じだねとか。考える楽しさとか、そういうのもこの感動体験の一つになると思う。結局は、授業を通して、子どもたちがほのかな感動体験を味わうことができるかどうかだと思う。そこが、学校の管理職、担任の腕の見せどころだと思います。先ほど委員さんから、勉強は学校の責務だっていう話があったけど、まさしくそのとおりです。それで授業で分かった、できた、という感動体験が結果として学力テストで数値が上がるとか、偏差値が上がるとか、その単元を教え終わった時にテストが良くなって数値が良くなければ、先生方みんなが頑張っていますよ。子どもたちも、毎日授業頑張っていますよ。テストをやったら数値がすごく低い。これは、いくら頑張っていますって言っても数値が低かったら説明にならないですよ。私が市教委に入った時、もう今から十何年前ですけど、その時は県の基礎学力を図るテストが埼玉県で実施されていて、八潮市全体が低かったんですよ。それで学力の数値が低い。当然、偏差値も低い。そうすると高校の選択肢が狭くなるんですよ。受験する高校が限られて来てしまう。先ほど委員の方々から意見がありましたけど、ある程度数値があれば、学校って選べる範囲が広がります。将来子どもたちが生きて行く上である程度、選択肢を広げてあげるっていうことは、義務教育で、私はすごく大事だと思っています。

もう1つはですね。教育って10年後、20年後に生きていくことがあって、子どもの進路の選択肢が広がることによって、子どもが将来、ああいう専門学校に行ってみたいとか、ああいう大学で勉強してみたいとか。市教委で夢大学をやっていますけど、そういう将来の夢とか希望とか期待を子どもたちが持てるような教育を、是非進めていただきたいと思っています。

1つは感動体験。それを大事にした教育をしてもらいたい。2つ目は、八潮の教育の推進校になってほしい。単に子どもの数が増えました。器として、1つ学校を作りました。そうではなくて、せっかく最新の学校施設を作って開放的ないろんな工夫がされているスペースがあるとかって話がありましたけど、ぜひ、八潮の教育の推進校となってほしい。もう1つはですね、市内15校を牽引するような、市内15校の先頭に立つようなモデル校になってほしいと思う。結果的に、エキスプレスのどこかの駅に仕事の関係で引っ越してくる時に、隣の駅も近いけど、もう一步先の八潮市の駅の近くの新設校で、こういう教

育をやっているから、八潮に住んでみようっていう。第一回の会議の話の中でも出ましたがね。そういう、発信力があるような、八潮市内外から、様々な視察に来られる方にも耐えられるような夢のある学校になってもらえたらいいなというふうに思います。いずれにしても、そういう新設校で学んだ子どもたちが、日本か世界か仕事の関係でどこに住むか分かりませんが、第一回の中で委員の方がおっしゃっていましたが、一回目の卒業生だとかが俺はこの学校卒業したんだっていう愛校心とか、強いては郷土愛につながるような、そういう学校になってもらいたいと思っています。以上です。

では、今、お一人ずつご用意いただいたところですが、もうちょっと語りたいとか、あとはもうちょっと付け足したいとか、ご意見とかありましたら遠慮なくお願いします。

(委員)

いいですか。前回、小中一貫教育について話されて、自分自身ちょっと分からなくて、何のメリットがあるのだろうと思っていて、私立とかだったら意味がありますが、公立でそんな意味があるのかなと思っていました。今、いろんな委員さんの話で、やっぱり中学生が小学生を見るとか、すごく良いなって思いました。例えば野球をやっていて、小学校6年生が、中学校3年生のボールを見た時にどう思うのだろうか、感動するのかなとか、すごいバッティングですごく飛ばすことができる中学生を見る経験をするのも、教育上は良いのかなと思いました。

自分の子が高校二年生ですけど、勉強に関しても、小学生の時に自分が勉強を教えても全く聞かないです。こういうやり方をしろと言っても、もういや、そんなの知らない、みたいな感じです。でも、友達が教えたり年上の人が教えたりすると素直に聞きます。そういうところがあるので、小中一貫教育にメリットがあると感じました。そういうところが、本当に一番良い特徴かなと思いました。以上です。

(会長)

事務局は、小中一貫教育のメリットなどについて何か言い足りないところありますか。

(事務局)

ありがとうございます。今の皆様の小中一貫教育に関連するお話を聞いて、改めてすごく魅力ある取り組みだなってことを再認識致しました。これまで施設分離型だったところが併設となり、一体に近い形ということで、設計の段階で小学校と中学校の間をつなぐ通路を作っていただいたりとか、潮止中学校から通路を通して、新設小学校に入ったすぐのところにはばたきルームという交流の部屋を作っていただいたりとか、設計なども少しお願いしたところです。例えば、中学校の生徒の姿を見せるとか、部活動についての話がありましたけれども、そういった取り組みだとか、あるいは子どもの交流以外にも、例えば先生方の交流で、八潮市で推進を模索している乗り入れ授業というのがあるんですけども、中学校の先生が小学校に行って授業のお手伝いをするとか、そういったこともいろいろできて、新しく可能性がすごく広がるなど改めて感じさせていただきました。ありがとうございます。

(会長)

他に委員の皆様方から何かございますでしょうか。遠慮なくどうぞ。

(委員)

皆さんのお話を伺っていて思い出したんですけど、自分が通っていた中学校が1階に幼

稚園があつて、1階と2階に小学校があつて、3階から5階が中学校っていう学校に通っていました。自分は違う小学校から行ったので、小学校の中の様子を知らなかったのですが、兄弟がいたりすると、下の階に行つて子どもたちと交流したり、学校としても小学生に教えに行くクラブがあつたり、そういう期間があつたりして交流していました。体の大きさの違いがあつたので、体育的な交流は一切なかったんですけど、その小学校から上がってきた友人たちに聞くと、お兄さんたちお姉さんたちを見てきて、自分たちが上のフロアに行くっていう憧れがすごくあつたりとか、もちろん朝入るところがほぼ一緒なので、みんなで挨拶をすることも交流になっていました。思い返してみてもすごく良いなと思いました。小学生の親としては、登校の面でも小中学生と一緒に歩いていると少し安心感があるのかなと。あと中学生にしてもちょっと自分が守ってあげようという気持ちが生まれて良いのかなと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。他にいかがでしょう。

(委員)

今の小中一貫の話をいろいろ聞いていて、可能かどうか分からないんですけども、先ほど校舎もくっつけられればみたいな話もあつて、校舎もつなげられて小中一貫っていう形で、新しく生徒たちが母校と呼べるような形にするのであれば、例えば、これから決める学校の名前とか、あと校章、校歌とかを小学校と中学校で一緒にして一つにするのも、面白いなと思っていました。

(会長)

他にいかがでしょうか。

(委員)

中学校と小学校の校庭が隣同士で、境はどんな感じで作られますかね。塀はどんな感じですか。よろしくお願いします。

(事務局)

すみません、大変恐縮ですが、今日、教育総務課の施設整備の担当職員が別の会議にでていて、詳細が分からず、お答えすることができません。

(委員)

自由に行き来できるグラウンドなのかなとか思ったり、あとは同じ通学路に登校しているイメージだったんですけど、正門は真逆ですよ。だから、別々で登校して、中学生がおはようございますと言っている姿を小学生は見ることはないのかなと思いました。できれば、同じ門から入って右と左で中学校と小学校で、お兄ちゃんたちが元気におはようとか昼休み遊ぼうねとか、そんな交流があつたら理想だなと思ったのですが、この図面見た時に正門は別なんだって思いました。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(委員)

私は施設建設委員会の委員をやっています。今、委員さんから門についての話があつた

小学校の正門といわれるのは、八潮駅側に西門といわれる小学校の門があります。図面でいうと、左手側の真ん中あたりです。中学校は変わらずということであれば北がおそらく正門になって生徒たちが入ってくる門になると思うので、大きな通りから入ってくるところで多分変わってくるのかなと。中学生と小学生の登校は、ある一定のところまで多分同じだと思いますけど、学校に入るところは別のような形だと説明は受けています。また、仕切りについては、入り口があるって聞いています。どういう形になるのかわかりませんが、要は区切りをつけてあるっていうんですかね。建築法で建屋はくっつけることは多分できないので、おそらく行き来するとしたら、グラウンドもしくは一回出てから各自の方から入ってくるみたいなイメージかなと思います。

話が変わってしまうけれど、この審議会の中で、先ほど皆さん、小中一貫教育で中学生が小学生を教えたほうが良いっていうのは、もう私はまさにその意見も共感できる部分があります。ただ、突拍子もない話になってしまいますけれども、今、公立である以上、各生徒に同じものを同じ分だけ提供していかなくちゃいけないっていう教育が、恐らく法律で学校教育のベースになっているんじゃないかなと思っています。それで気に入らなければ私立に行きなさいって話で、専門的なところをやりたければ、ちょっと乱暴な言い方をすると私立の学校に行けという考えです。要は期待をしてはいるのですけれども、それが先生方に対してあまり重荷になってほしくないなということです。親はどこを見て子育てをしているかという、確かに勉強はできないよりはできた方が良く、運動もできないよりはできた方が良く。一応、小学校中学校が終わって高校行きますよってなったときに、学力が高ければ、いろいろな学校の選択肢もあるし、大学に行きたいっていえば、おそらく、昔であれば、学力の高い高校に行っていれば、選択できる大学っていうのもたくさんあったという時代だったんじゃないのかなと思うのです。でも今は、Fラン大学っていう、いろんな大学があって、その中で実は偏差値の38とか40とかでも普通に大学に行けるようになっていて。間口がすごく広がっています。要は大学に行かなくちゃいけない状況をどう子どもたちが感じているかというところは私は自分たちの子どもには非常に懇々と説いている部分があります。今、中学一年生の長男はもう高校に行きたくないって言っているんですね。なんで行きたくないのかという勉強が嫌いだからって言います。お父さんだって大学行っていないけど、家族みんなで楽しく暮らせるから、別に学校なんか行かなくていいじゃんっていうような言い方をするんですね。なんで高校に行った方が良く、なんで大学行った方が良くのかを、多分、今の親って説明できる人はあまりいないと思うのですよね。みんなが行くからとか、そんなぼんやりとした理由でしか説明できない人が結構多いのかなと思っています。先ほど会長も言っていましたけど、その選択できる部分でいうと、中学校卒業して働こうと思うと非常に選択肢が狭い。選択肢を広げたいと思ったら、高校を卒業しなければならない。高卒っていう学歴がないと選択肢が広がってこない。もっと言えば、東証プライムっていわれる上場企業に入りたければ、やはり大学卒業していないとそういう企業に入れない。中卒じゃまず無理だし、高卒でも入れるパーセンテージが非常に低い。僕、子どもたちによく言っているのは、それはあなたたちの選択肢が広がるから勉強した方が良くんだよっていうのは懇々と説いています。広くすべての生徒に同じ授業をしていかなければならないっていうのが、おそらく苦痛な部分であったり、大変な部分だと思います。どうしても効率を高めると、そういうふうになってしまうのかなって思っています。負担に感じてほしくないなって思っているのは、僕は、学校は勉強するところだと思っているんですけど、子どもたちは、友達をたくさん見つけてその子ども同士の交流をたくさんしてほしい。そういう場が小学校であり、中学校であるというところで、学力は二の次でもいいのかなと。子どもたちが自分たちの人生の中で勉強したいなと思うタイミングが必ず来るので、それが高校の時なのか、大学の時

か、働いてからなのかっていうのは、その人の人生なので、僕は子どもたちの人生に責任を持とうと思っていないので、あなたたちは、かつてに生きていけば良いよと。ただ、大人になるまでは僕は責任があると思っています。先生が非常に重い責任を感じながらの教育っていうのは時代が違うんじゃないのかなっていうのはすごく感じています。ちょっととりとめのない話になってしまいましたが、楽しい9年間を過ごせるような環境作りをしていてほしいなと思います。隣同士になるので、小中一貫教育が、非常にやりやすい環境になってくるんだらうと思いますけれども、そこを最大限メリットとして活かして欲しいなというのが、個人的な意見です。

(会長)

ありがとうございます。他にご意見ございますでしょうか。

(委員)

小学生のうちから小中一貫校で高校受験を見せられたらいいかなと思います。うちは5年生ですが、高校受験の状況や、どういうところに受験できるかというのはあまり聞いていないので、小学生のうちから高校受験がどうなのかとか、そういう情報を先生と話すことができたらいいなと思いました。

(委員)

ちょっとお伺いしたいのですが。諮問書に対する用意を進めていくスタンスでやっているのは重々承知しているのですが、ちょっと教育の話ばかりでどういうベクトルがよく分かんないのですが、どういう方向性に持っていこうとしているのか。諮問書の時は確か、新設小学校開校に伴う校名等その他の開校準備の方向性という諮問書でしたね。その中で校風とか教育をいかに反映するかということで進めてきたと思うのですが、前にいただいた諮問書をもう一度読んでいるのですが、バランスがそっちの話がメインになって、どういう形で、どこにどういうふうにとすのかをお示しいただければ議論もしやすいと思いますので、よろしくお願いします。

(会長)

私の方から校名を決めるにあたって、校名どうしましょうか、校章をどうしましょうかっていきなりこの学校教育審議会の中で決めるには、ちょっと無理がある。どういう新設校でどういう教育を望むのか、どういう教育で子どもたちを育ててほしいという、そういう新設校の教育に対する思いとか、願いをまず皆さまからお伺いしたい。こういう教育の方向性なりを出していこうということで、今いただいた各委員の皆様方のこのような教育を新設校に期待するという意見が事務局がまとめた上で、その次に、校名です。それに基づいてか、踏まえてか、どういうふうなことになるか分かりませんが、いずれにしても校名を決めるにあたっては、選定基準に基づいて校名を決めていくと、第1回目の時も委員の方から変な校名ではないとかの選定基準が当たり前だから、もうちょっと具体的な選定基準が必要ではないかという意見があり、その選定基準を設ける上でも、今こうした委員の皆様方から出た意見っていうのは非常に大事なんじゃないかなと思います。選定基準にも関わってくるのではないかなと思います。それと第1回の審議会の答申を出すまでのスケジュールが、事務局の方から示されています。校歌とか校章ですか。この会議で決定されるようにと示されています。ただ、諮問書の中でその選定という言葉が私は非常に気になったので、この審議会にはふさわしくないということで、改めてその文言の整理をしていただいて、2回目の会議で受け取った諮問書には方向性ですよね。その校

歌とか校章とか、そういうものを決めるにあたって、この審議会では、方向性を出していくことだと私は思っています。また次回、もしかしたらその次になるかもしれませんが、校名以外の校章とか校歌とかを決定してもらいたいというようなスケジュールが出ていたけれども、私はこの会議では例えば校章は、丸にするのか三角にするのかとかね、シンボルツリーは、何メートル以上は大変とか、落ち葉がいっぱい落ちるからこのシンボルツリーはまずいとかね。この審議会の中で植木屋さんと呼んでどうしようとか、私はそういうのはこの会議ではふさわしくないと思っています。だから、その校章とか校歌を決める方向性を委員の皆さんにお伺いしたい。事務局がある程度素案を作ってくれると思うのですが、前回話したように具体的な校章の形をどうするかとか、シンボルツリーをどうするか、校歌をどうやって作っていくのかとか、校歌の一字一文字とか、メロディーをこの審議会の中で決めましたよとか。そういうイメージを持ってなくて、こういう学校にしたい、こういう子どもたちにこういう教育をしてもらいたいという、そういう理念を校歌の中に活かしてもらいたいというようなことを、この審議会に方向性を出してもらいたい。あとは例えば校歌策定委員会とか校章作成委員会とか、どういうメンバーになるか分かりませんが、それは事務局の方にお任せして、普段こういう教育をしたいということを踏まえて、具体的ななんとか委員会の人選をして下さいねとか、こういう決め方もいいんじゃないですかという案を出してもらったり、審議会のこれからの流れはそういうスケジュール感でいます。ただ、校名だけはかなり地域の番地とか、そういう地名で付けた学校もあるし、ただ、今こういう話を聞いているとモデル的な学校とか、そういう話も出てくるから、地名だけの学校で良いのかとか、当然そういう議論にもなってくると思います。校名だけは、やはり各町会自治会とか学校関係者がいるこの教育審議会の中で、丁寧に決めていくのは大事なかなというふうに思っています。よろしいでしょうか。

(委員)

諮問書に沿わなくていいってことですね。

(会長)

そういうことは言っていない。

(委員)

諮問書はあくまでも開校準備に係る方向性についてということを示していますよね。その中で具体例が校名だとか、シンボルツリーとか校歌とかって具体的なものがあつたと思うのですよ。だから今、会長のお話ですと方向性だけを示すのがこの審議会の役割だという理解でよろしいですか。

(会長)

私は、今そう思っていますけれども、事務局のお考えももちろんね、第1回目のスケジュールでありますし、2回目の方で整理した答申の中でも方向性っていう話が出ているので、全部が全部この審議会の中で決定することがこの審議会の役割というふうには私は思っていない。検討しないってことは言っていないよ。検討するけれども、具体的に決めるのはその場ではなかなか決められないんじゃないかなというふうには私は思っています。私のそういう意見も踏まえて、事務局の方で次の会議で今後のスケジュールについて改めて、委員の皆様にお示ししていただくのが良いのかなと思っています。

(委員)

何を決めているのか全然分からない。

(委員)

私どもの理解では、やはり諮問書が大前提で始まっていると思っていますから。いろいろ諮問書で示されたものを協議したり検討する中で、今言っているような、そういう理念とか抽象的なものがすごくあるわけですね。それをいかに具現化するかとか、そういうふうな方向付けでやるものだと思っていましたので。そうすると諮問書にとらわれなくてもいいのかなという疑問があったもので、ちょっとお聞きしたのですが。だから、限られた審議会の会議の回数の中で、おそらくどこに結論を落とすのかですね。当然、会長の役目でしょうから、それをお聞きしたかったんです。

(副会長)

諮問書の内容が1回目と2回目で変わったじゃないですか。変わった中で言うと、結局は、「以上のことから新設小学校の開校にあたり、学校運営の礎となる考え方を念頭に、校名等その他開校準備に係る方向性について諮問するものです。」となっています。当初は選定という言葉を使っていたけど、2回目、変えてもらった部分に関しては方向性について諮問するってことです。具体的なものではないのですが。

(委員)

ですからね。今までいろいろ皆さん、ご意見を言って、その貴重な意見は分かります。ただ、何か一つ具体化していくにはどういう方法を取るのかっていうのを聞きたいわけです。抽象的な理念とか、そういう話ですから、求めている諮問っていうのは、開校準備に合わせたそういう具体的な方向性を求めているわけですね。言っている方向性というのは、例えば校名だとか、そこに導くためのプロセスが必要なわけでしょう。だからどういう形で進めるのかなと思って、素朴にちょっと質問してみただけなんですけど。

(委員)

何を決めているのか分からない。

(会長)

私は別に違和感なく進めているんですけど。

(委員)

いや、私も違和感とは言っていないです。ただ、限られた時間の中で、おそらくある程度の結論を出さなきゃいけないんじゃないですかと、そういう命題が与えられているんじゃないですかってことを言っているわけです。そうすると、今みたいにこの理念とか、そういうものだけをやっていて、どういう形でそれを結論づけるのかなってお聞きしたんですけど。

(会長)

繰り返しになりますけど、理念を話し合った上で、まず校名を決めていくということです。

(事務局)

事務局です。この会議においては、校名の選定はしていきたいというのがありまして、

校名の選定に向けての色々な理念や教育の特色等を踏まえて新設小はどういうところを目指していくべきかということを確認してから、第一回の会議での公募の関係などを出させていただきますが、公募にするにあたっても、この学校はどういったものを目指していますっていうのを示しながら公募していくというようなお話しになっていたかなと思っています。学校名については、いずれまたご相談させていただいて、公募をするのであれば、こういう内容で公募してよろしいでしょうかということをお諮りしていこうと、事務局として考えています。そこに出てきたものに対して、この中からどうやって選んでいこうとかをこの審議会の中でやっていただきたいと思います。かたや、校章ですとか校歌、あるいは体操服、こういったものについては、この審議会ではなくて、分科会的なもの。例えば我々教育委員会の職員であったり、あるいは学校の先生方で構成したそういう検討会、あるいは分科会みたいなところである程度、候補を絞っておいてから、例えばこの審議会にお示しして、こういった方向性でどうでしょうかということも、可能性として考えられるのかなと事務局は思っていました。ただ、その進め方も次回の会議で、ある程度、事務局から案を出させていただければなというふうに思っているようなところなんです。本日、ご意見大変たくさんいただきました。それをまとめて、新設小学校についてこういったものを出していくのはどうでしょうか。と事務局でまとめさせていただいて、素案のような形のものを作らせていただいて、次回お示しできればと思います。また、次回の会議の時に、その次のステップについてもちょっと触れさせていただければというふうに考えているところでございます。よろしくお願いします。

(会長)

はい。それでは時間が来ましたので、今日これで各委員の皆様方からの期待する新設校の教育ということで、区切らせてもらってよろしいでしょうか。委員からありましたように今後のその校章とか校歌とか等々具体的に決めるものが、この委員会であるんじゃないかとか、最初の資料で出たところを事務局に整理していただいて、この会議の進め方とか、これについて決めていきますよとか、そういうものを次回確認した上で進めていければなというふうに思っています。よろしいでしょうか。

(委員)

第一回目の時に一般公募するとかっていう話になっていましたが、この委員の中だけで決めちゃうわけですか。

(事務局)

次回、前回と今回の話のまとめを作りながら、選定の一つの方法である公募の形で事務局案としてお出しできるかと思います。一番最初の会議では、校名に加えて、校章、校歌、体操服をこの審議会で選定していただければという資料の出し方であったのですが、今は、校名については引き続き選定をお願いして、その他の部分の決め方については、もう一度改めるような段階だと思います。まずは校名については重ねてなりますけど、公募はいずれ必要だと思っていますので、それについてのご説明をさせていただければと思っています。よろしくお願いします。

(会長)

よろしいでしょうか。それで次回は、今日の各委員にいただいたものを素案という形になるかもしれませんが、まとめたものを事務局の方にご提案いただくと、2つ目は今後のスケジュールについて改めて委員の皆様にご提案していただくということでよろしい

でしょうか。それでは事務局にお返しします。

5 その他

事務局より、下記の内容について伝えた。

- ・ 本日の会議内容について、教育委員会に報告すること
- ・ 本日の会議について、追加のご質問ご意見等を受け付けること
- ・ 次回の日程について

6 閉会 近藤副会長